

生命の争闘

(大正十年寮歌)

青野正男君 作歌

小峰三千男君 作曲

一

生命の争闘敗れじと
雪解の野辺に萌え出でし
浅緑なる若草の
伸展ゆく生命思ふとき
我々が胸に溢るなり

二

悲哀誘ふ郭公の
声を聞きつつ逍遙へば
今は小暗き木下闇
黒百合咲けど春いづこ
うつろひやすき若き日を
盧生の夢となすなかれ

三

牧場に虫の音も淡く
仰げば高し秋の空
肥馬原頭に嘶きて
雄渾の気はあふれつつ
崇高理想を胸にして
生くる喜悅謳ふ哉

四

眺めはてなき石狩の
曠野に凋落の秋更けて
寂しく暮るる手稲山
今うすれゆく赤陽に
想ひぞ馳する北欧州
戦禍の跡の夕まぐれ

五

夕吹く風膚にしみ
音も淋しく行く櫓の
大雪原に消ゆるとき
寒月高く冴ゆる夜半
哀愁をこむる若人の
瞑想ぞ如何に深からん

六

嗚呼北州の春秋に
自然の教訓學びつつ
尚き生命に生きなんと
精神を磨く友どちよ
先人建てし自治寮の
貴き歴史伝へかし